

合同学習会 都市公園の遊具と子どもの安全



報告書

日本技術士会登録 子どもの安全研究グループ
NPO法人 Safe Kids Japan

参加無料 都市公園の遊具と子どもの安全

vol.
2

遊具について学び考えるこの会、2回目の今回は私たちにとって身近な「都市公園」について考えます。子ども・子育てに関わる多くの方のご参加をお待ちしています。

日時

2022年 2月26日(土) 14:00~16:00

Zoom 200名



■ 申込フォームまたはQRコードからお申込み下さい。定員に達し次第締め切ります。

対象

子どもの安全に関心や責任を持つ人、子どもの傷害予防活動を行なっている人、教育・保育施設の教職員等



モデレーター：森山 哲（技術士・労働安全コンサルタント・子どもの安全グループ会員）



I) 合同学習会開催にあたって

瀬戸 馨（技術士・日本技術士会登録 子どもの安全研究グループ 会長）

技術士（建設、総合技術監理）。道路の安全、雲仙普賢岳災害対応などの経験を活かして、子どもの安全について調査研究している。



II) 「国庭とはけっこう違う！ 公園の役割と課題」

松野 敬子（社会安全分野学術博士・保育園園長）

我が子を遊ばせている公園遊具の安全性に疑問を持ち調査を始めたのが1997年。2010年には市民レベルの活動に限界を感じ大学院に入学、900か所の京都市内全公園を徹底調査し2015年に博士号を頂きました。地域では、保育園と子育て支援拠点を運営しています。



III) 事例検討

① バナナ型滑り台

鈴木 徹郎（子どもの安全研究所 代表・小児科医）

小児科・内科医師として勤務する傍ら、近隣の保育園や福祉施設などで子供の事故防止をテーマに講演をしている。



② ローラーライダー

原 真一（技術士・子どもの安全研究グループ 会員）

技術士（応用理学、総合技術監理）として事象を分析的に捉え、工場生産設備の安全対策に携わった経験から子どもの安全を技術面から支援することを心掛けている。リスクに何があるか十分に把握したうえでどこまで許容すべきか判断したい。



IV) 遊具の安全基準について

西田 佳史（Safe Kids Japan 理事・東京工業大学工学院 教授）

日常生活における子どもの行動は、身近でありふれた現象であるにもかかわらず、これまで科学技術の対象として扱われてこなかった現象です。遊具安全の分野では、AI、IoT、ビッグデータなどを活用した新しい基準づくりが始まっています。



V) 遊具による重大な傷害を予防するために

山中 龍宏（Safe Kids Japan 理事長・小児科医）

子どもの傷害を予防するためには、変えられるものを見つけ、変えられるものを変える必要があります。今回の学習会では、遊具による傷害が発生した場合、何をどのように変えて予防につなげるのか、という検証報告が行われます。どうぞご期待ください。



SAFE
KIDS
WORLDWIDE
JAPAN



共催：日本技術士会登録 子どもの安全研究グループ / NPO法人 Safe Kids Japan

開催日時：2022年2月26日(土) 14:00-16:00

開催形式：Zoomによるオンライン形式

申込者数：90人

当日参加者数：60人

アンケート回答者数：12人



合同学習会開催の背景

2021年2月20日、公益財団法人 日本技術士会登録「子どもの安全研究グループ」と、NPO法人 Safe Kids Japanは共催で、「子どもの発達と遊具の可能性」と題する学習会を開催しました。これは、2017年4月12日に香川県善通寺市内の保育園で発生した、遊具による園児死亡事故が発端になっています。

都市公園の遊具に関する安全指針としては、2014年6月に国土交通省が公表した「都市公園における遊具の安全確保に関する指針（改訂第2版）」があります。また、同じタイミングで一般社団法人 日本公園施設業協会（JPFA）が「遊具の安全に関する基準」を同協会内部の自主規準として定めており、公園管理者はこれらを参照しつつ、公園の安全管理に努めています。

一方、幼稚園や保育園等「教育・保育施設」に設置されている遊具には、乳幼児が使用することを前提に作られた指針や規準がないため、教育・保育施設は上記都市公園の遊具に関する指針や規準を参照することになっています。善通寺市の事故に関し、2019年1月高松地方検察庁はこの件を嫌疑不十分で不起訴としましたが、その理由として、「事故があった『うんてい』はガイドライン（「都市公園における遊具の安全確保に関する指針（改訂第2版）」が求める基準を満たしていなかったが、70ページ以上に及ぶガイドラインを読んで理解するのは困難で、子どもが隙間に首を挟んで死亡することを予見するのは難しかった」などとしています。

この判決の課題は課題としつつ、私たちは「教育・保育施設」に設置されている遊具をはじめとする「乳幼児が使用する遊具」について考える機会を持ちたいと考え、2020年春頃から議論を重ねました。最終目的は「子どもの遊具による重大な傷害を予防すること」ですが、その目的を達成するため、身近な都市公園の遊具と子どもの安全にフォーカスした学習会を開催することとしました。学習会の開催は、2020年度に続いて2回目となります。

合同学習会開催にあたって（瀬戸 馨）

- I. 合同学習会開催にあたって
- II. 「園庭とはけっこう違う！公園の役割と課題」
松野 敬子（まつの けいこ） 保育園長・公園遊具の研究者
都市公園の成り立ちと公園遊具の安全性
- III. 事例検討
 - ①バナナ型滑り台
鈴木 徹郎（すずき てつろう） 小児科医・子供の安全研究所代表
M市公園における事例をもとに、利用者、行政、遊具メーカーのあり方を考える
 - ②ローラースライダー
原 眞一（はら しんいち） 技術士・子どもの安全研究グループ研究員
ローラースライダーの原理とそこに潜む知られざる危険性をわかりやすく解説
- IV. 遊具の安全基準について
西田 佳史（にしだ よしふみ） 東京工業大学教授・Safe Kids Japan理事
遊具の新しい安全基準をはじめとする最新の先端情報を解説
- V. 遊具による重大な障害を予防するために
山中 龍宏（やまなか たつひろ） 小児科医・Safe Kids Japan理事長
子どもの傷害予防の第一人者として、学習会の総括をいただく
モデレーター 森山 哲（もりやま てつ） 技術士・労働安全コンサルタント

合同学習会開催にあたって

- 第1回(2021年) 右チラシ参照
「子どもの発達と遊具の可能性」
保育園・幼稚園などの園庭遊具を中心に
子どもの発達と遊具の関係を学習
⇒ **良い遊具**
- 第2回(2022年)
「都市公園の遊具と子どもの安全」
都市公園に設置されている遊具に焦点を当て
そこで遊ぶ子どもたちの安全について学習
⇒ **安全な遊具**

安全とは？

- ・「安全」とは
– 危険がないこと
- ・「危険」とは
– 安全でないこと
- ・工学的には*
– 許容不可能な**リスク**がないこと
 - ・許容可能なリスク(tolerable risk)とは
現在の社会の価値観に基づいて、与えられた状況下で
受け入れられるリスクのレベル

*ISOガイド 50:子どもの安全の国際基本規格
安全側面－規格及びその他の仕様書における子どもの安全の指針

子どもの発達と遊具の可能性

子どもや子育てに関わる人にとって欠かせない「遊具」。公園や保育園、幼稚園に設置されている身近なものです。遊具とは何か、遊具は子どもの発達にどのような影響を及ぼすのか、といったことを考える機会はありません。この学習会では、遊具のベネフィット（恩恵）や可能性について学ぶと共に、遊具による重大な傷害（けが）を予防するための考え方についても学びます。子ども・子育てに関わる多くの方のご参加をお待ちしています。

日 時：2021年2月20日(土) 14:00-16:30（入室開始 13:30）

形 式：Zoom によるオンライン形式

定 員：100名（先着順 定員に達し次第締め切ります）

対 象：子どもの傷害予防に関する活動を行っている人、教育・保育施設の教職員、
企業や行政の関係者、子育て支援に関する活動を行っている人、保護者
（ケアラー）など、子どものすこやかな育ちを支える人

参加費：無料

申 込：専用フォーム または QRコードから

共 催：日本技術士会登録 子どもの安全研究グループ
NPO 法人 Safe Kids Japan



プログラム

- 1) 合同学習会開催にあたって
瀬戸 馨（技術士、日本技術士会登録 子どもの安全研究グループ 会長）
- 2) 遊具の可能性～ベネフィットの視点から
弘永 元（RPII 国際遊び場検査士機構 - 精密点検検査士、(株) アネビー）
- 3) 保育園の「楽しく安全な遊具」とは
松野 敬子（社会安全分野学術博士、保育園園長）
- 4) 「Guide50」（子どもの傷害を予防するための基本安全規格）で考える遊具の安全
森山 哲（技術士、労働安全コンサルタント、子どもの安全研究グループ会員）
- 5) 遊具を取り巻く最近の動き～「教育・保育施設における遊具の安全基準策定」について
西田 佳史（東京工業大学教授、Safe Kids Japan 理事）
- 6) おわりに
山中 龍宏（小児科医、緑園こどもクリニック院長、
Safe Kids Japan 理事長）



「園庭とはけっこう違う! 公園の役割と課題」 松野 敬子

◆背景～都市公園の誕生とその役割

街中の公園（以下、公園と記載）は、18世紀、産業革命による都市化の副産物として誕生した。野山で遊んでいた子どもの居場所が都市にはなく、安全に子どもが過ごす場所が必要となったからである。その後、第2次世界大戦を経て、都市の復興と子どもの福祉としてさらに発展していった。日本においても同様で、公園誕生当初は、「子どもの健全な育成の場」として整備は進められていった。そして、都市の復興が進んだ1980年代になると、欧米では、公園整備はその安全性への関心が高まり、事故の原因であった遊具の安全規準の制定と安全管理へシフトしていく。ところが、日本では、安全については、ほとんど関心を持たれることはなく、安全規準が示されたのは2002年であった。また、戦後の復興がかない子どもの福祉としての他の制度や施設が充実すると、しだいに公園の整備は「都市開発」という視点から進められるようになり、「子どものため」という視点が薄れていく。少子高齢化傾向にある現在では、公園は迷惑施設のように言われることも珍しくなく、その存在意義は岐路にあると言えるだろう。

◆公園の課題

「遊びは子どもの健全な成長には不可欠」という大前提が共通認識とされない限り、子どもにとって有益な公園にしていくことは難しい。公園の整備と管理が、「子ども」と関わりの薄い都市開発・整備の部署が担っていることは、大きな課題である。ここが園庭と公園の大きな違いである。また、遊びには、高い所に上るなどある程度のリスクが存在することで成り立つものでもある。どの程度のリスクを許容するかは合意形成なしでは、有効なリスクマネジメントは困難である。そうであるなら、よりリスクの低い、安全に軸足を置いた遊びの場としていくことが賢明である。

◆より良く公園を管理していくための試案

しかしながら、安全に軸足を置くと言っても、子どもにとって何ほどの程度のリスクとなるかの判断は、子どもを熟知している者でないと困難である。その解決策として、園庭を持たない地域型保育施設（小規模保育園等）は、近隣の公園を日々の遊び場としており、そういった保育園の保育士たちのマンパワーを活かした公園整備を実施していくことは有効ではないかと考えている。地域型保育施設は、0歳児～2歳児のみが在籍しており、安全に軸足を置いた公園管理に最適であるはずだ。併せて、そういった公園には、児童福祉関連の予算を投入することが可能となれば、そのクオリティの確保も格段に進むはずである。実は、児童福祉法に基づく「児童厚生施設」として公園（児童遊園）の規定はまだ生きている。子どもの福祉として公園を整備・管理することは不可能ではないはずだ。

1800 年代	産業革命後の都市への人口集中と生活環境の劣悪化 子どもの健全な育成の場として遊び場が誕生	1939 年～1945 年 第 2 次世界大戦
1900 年代 後半	第 2 次世界大戦後の都市の復興と自家用車の激増 危険な街路で遊ぶ子どもたちを守るために遊び場が発展	
欧 米	日 本	
1970 年代	遊び場での事故が社会問題化	児童福祉としての児童遊園
1978 年 独	世界初遊具の安全規準 D I N 7926	児童厚生施設 「児童遊園、児童館等児童に健全な遊びを与え、 その健康を増進し、又は情操をゆたかにすることを 目的とする施設」
1981 年 米	C P S C 指針	
1986 年 英	B S 5696	都市開発としての街区公園へ
	1995 年・1999 年 国際遊び場会議	1990 年 頃～ 遊び場での事故が社会問題化
	安全を求めすぎた反省 子どもの遊びにはリスクが必要	2002 年 国交省安全指針、及び JPFA 安全規格発表
	欧米では、リスクアセスメントこそ が重要であると、試行錯誤していた。	2012 年 公園施設の長寿命化計画策定指針
		2018 年 維持管理に関し補助金を得るには現状調査と 管理計画の策定

街区公園に求めるものと園庭に求めるものは違う！

子どもの遊びに関して、事故をゼロにすることは現実的ではない

「一定の自己責任」

それが、どの程度であるのかは、ある程度、保護者と管理者間での
認識の一致は必要。

**管理者と保護者間のリスクコミュニ
ケーション**

そういったリスクコミュニケーションを図ることが難しい、
不特定多数の親子が利用する**街区公園**。

より安全に
軸足を置く

遊びの価値となるリスクを保持した遊び場は、
保育所・幼稚園・小学校などの養育・教育施設

リスクベネフィットア
セスメントを普及さ
せ、遊びの価値を
享受できる環境を
保障。

街区公園の役割と課題

遊びの価値と本質

そもそも、「遊びは子どもの健全な成長には不可欠」その大前提

そもそも、「遊びには、ある程度のリスクが存在するもの」

高い所へ登る、高い所から滑る、ぶら下る、
揺らし、回転して眩暈を起こす、など

キャー！



危ないし、（うるさいって）苦情言われるし、保育園に入れるし、
塾で忙しいし、ゲームの方が面白いし…

「子ども」のために公園は必要という前提が揺らいでいる

そういう時代に、公園や遊具にどんな役割を託せるのか？

より良い街区公園にしていくための試案

一つの可能性としての考え方

利用者＝不特定多数

リスクマネジメントの対象が絞れない
リスクコミュニケーションをとる事が難しい

ある程度、利用者を絞り込み、最も適切な群を想定して
リスクマネジメントを行



地域型保育園（小規模保育施設）

園庭をもたなくても良く、地域の街区公園を代用する。

保育士は、子どもの発達成長へ知識があり
どんな風に遊び、何が危険かを知っている

「児童福祉法」、「児童福祉施設の整備及び運営に関する基準」は生きている。
ただ、それに基づき運用されている児童遊園がなくなっただけ。
街区公園は、子どもの福祉として整備・管理することは可能ではないか。

「事例検討① バナナ型滑り台」 鈴木 徹郎

4歳の幼児がバナナ型滑り台の分岐部（地面からの高さ約1メートル）から頭部を真下にして転落する事故が起きた。奇跡的に軽症で済んだが、頸髄損傷などの重い傷害につながりかねない事故であった。事故当時、遊具には対象年齢が6歳から12歳であること示すシールが貼られていたが、保護者はその存在を認識することなく児を遊ばせていた。

この事故の原因は「保護者の注意不足」だけだろうか。公園は不特定多数の子どもが多様な環境下で利用する場所である。保護者同伴の場合であっても、その危険察知能力、掲示物等から情報を読み取る能力は千差万別だ。したがって遊具に対象年齢を表示したとしても、その年齢未満の児も使うことは想定すべきであり、少なくとも致命的な傷害は避けられる構造上の工夫が必須である。事故の原因は遊具の構造にも少なからずあると考える。

しかしながら事故の報告を受けた公園管理者と遊具会社は、構造の改善は行わず、対象年齢シールの更新と、新たな注意書きを掲示するにとどまった。これでは同じ事故が繰り返され、いずれ重い傷害を負う子どもが現れることが懸念され、事故発生から7か月後に市議会議員の見解も踏まえ、バナナ型滑り台は撤去された。

現在までに同遊具の撤去は全国で2例（盛岡市、横浜市）が確認されている。現在も遊具会社とその所属する日本公園施設業協会は、当該遊具の構造上の不備を認めてはいない。今後もバナナ型滑り台に関する情報収集と情報発信を続ける必要がある。



(事故当時の現場)

対象年齢表示

最終的に

公園の近くに住む
市議会議員に相談

バナナ部分は撤去され、
別な滑り台に替えられた



「事例検討② ローラースライダー」 原 眞一

滑り面にローラーを敷き詰めた滑り台「ローラースライダー」は人気がある一方、事故も発生している。ローラーによる巻き込みは対策が要る。

それ以上に、体重が重くなると速度もカーブで受ける力も大きくなる特徴が課題となる。親が子供を抱いたり子どもが集団で滑ると速くなり危険性が増す。尻をつけない姿勢や足ブレーキなどの想定外の行動も事故につながる。

これらの事からローラースライダーのあり方を考察した。

ローラースライダーとは

- ▶ 今日の検討対象は、遊具としての滑り台の滑走面に直径2 cm程のローラーを敷き詰めたもの。通常の滑り台より高速になることで楽しみが増す。
- ▶ 重力エネルギーの一部をローラー回転に移すことで速度を抑制し、長距離でのスライドを可能にしている。
- ▶ 事故には、ローラーへの巻き込み、曲線部分からの落下、足の骨折や股関節脱臼、支柱衝突による頭部骨折などがある。



速度

- ▶ 概略計算では、子どもの体重を20 kgとした時、滑る距離2 m当たりのローラー回転部分の質量と同程度となる。落差によるエネルギーがローラー回転にも使用され滑降速度は遅くなる。
- ▶ 30 %勾配では、滑降速度3.4 m/s (12 km/h) で一定となる。
- ▶ 体重4倍の大人が滑る時、滑降速度は6.8 m/s と倍加する。子ども4人が集団で滑る時も速度は倍加する。
- ▶ 計算結果は、滑降前にローラーが全て回転していないという仮定の下なので、すでに回転していればその分速くなる。
- ▶ 雨などで濡れた場合、ローラーが停止していないと通常より速い可能性がある。
- ▶ 大人が抱っこしたり子供が集団で滑ることへの考慮も必要。

ローラー回転

- ▶ 皮膚や下着類の挟まれが起きている。
- ▶ 子どもにとって、速い動きを楽しむものであり、ローラー回転によって挟まれるリスクで得られる教育効果は何もない。
- ▶ よって、重大事故が起きにくいという理由で放置して良いことにはならない。
- ▶ 防止は既存の技術で可能である。

例えば、ローラー間にふたをする

エスカレーター同様の溝を付けることで

引き込まれは防止可能
凹凸は2.5 mm程度



方向制御

- ▶ 既存のローラースライダーのカーブ半径は3 m～10 m程。
- ▶ 速度を例で示した3.4 m/sとし、カーブが3 mとすると壁面から受ける加速度は4 m/s²、6 mでは2 m/s²とそれぞれ重力の40 %、20 %となる。
- ▶ 加速度は速度の二乗に比例するので、大人では加速度はそれぞれ16 m/s²、6 mでは8 m/s²とそれぞれ重力の160 %、80 %となる。
- ▶ 同様に、子どもを抱っこして滑ったり、集団で滑ると受ける力は増大する。壁面は手すりを兼ねるので、現実の高さには限度がある。
- ▶ 楽しさを感じながらも事故を起こしにくい設計が求められる。

「遊具の安全基準について」 西田 佳史

遊具の安全基準を、過去の事故データに基づいて作成することが強く求められている。本講演では、そのためのデータサイエンス技術（状況数理技術）とそれを応用して作成が進められた日本スポーツ振興センターの遊具事故の分析例を紹介した。

この状況数理技術は、従来のRmapを用いた分析のように、優先度が高い製品種別を発見するだけでなく、各製品ごとに、優先度が高い状況を発見可能にする点に特徴がある。また、日常生活環境に置かれた製品が遊具化することで、どのような事故が起こるのかを予測する技術として、乳幼児の発達段階を、製品とのインタラクションから直接的に推定する新しい手法も紹介した。この手法は、従来の年齢や月齢からの発達段階を推定する手法に比べ、拡大に推定精度が高い手法である。

事故ビッグデータを用いたR-Map分析

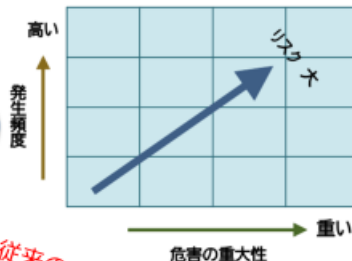
テキストマイニング

状況記述文から典型的な事故状況を発見

R-Map

典型的な事故状況の優先付け

統合



製品ではなく、状況のR-Map分析

対策優先度の高い事故状況を発見する

研究の目的

テキストマイニングとR-Mapを統合し、対策優先度の高い事故状況を発見する状況R-Map分析を開発

従来の分析方法は製品ごとが多く、状況レベルの分析が欲しい

社会背景と解決すべき課題 タイムリーな情報提示

不慮の事故が死亡原因の第三位^[1]

	1位	2位	3位	4位	5位
0歳	先天奇形	呼吸障害等	突然死症候群	出血性障害等	不慮の事故
1~4歳	先天奇形	悪性新生物	不慮の事故	心疾患	インフルエンザ
5~9歳	悪性新生物	不慮の事故	先天奇形	心疾患	インフルエンザ

発達段階により危険状況と予防策は大きく異なる

つかまり立ち(発達段階)



立つ(発達段階)



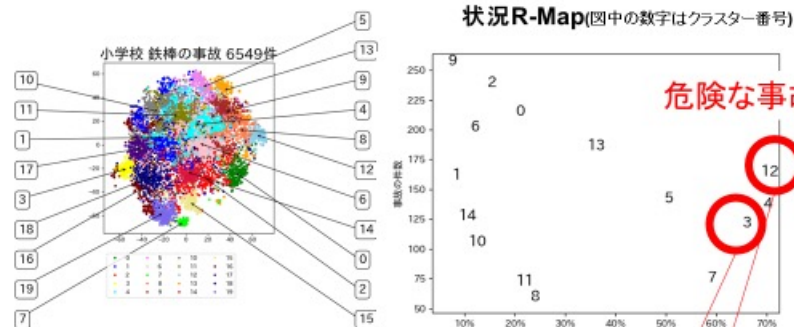
階段を登る(発達段階)



幼児の発達段階ごとの危険を保護者に教示して事前に対策を行う必要
→発達段階を正確に推定する技術が不可欠

[1] 厚生労働省, "人口動態統計", 2020.

結果:鉄棒の典型的な事故

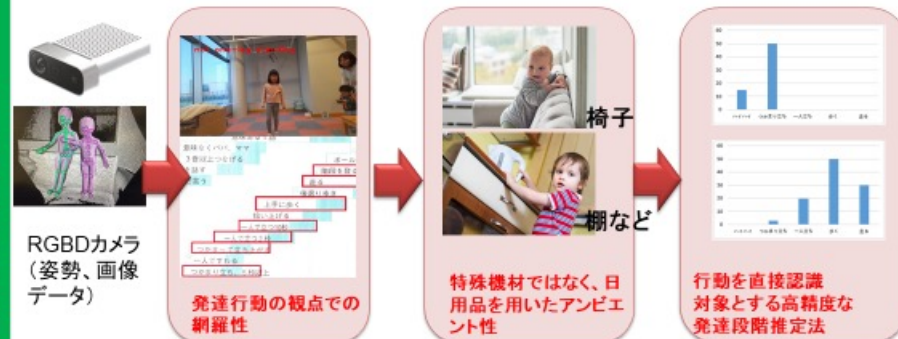


クラスター番号	クラスターで多い事故状況
5,8,9,13	落下して手をつく
1,10	落下して背中や顔を打つ
3	技に失敗して鉄棒に歯をぶつける
7	転がったボールを追いかけたところ、鉄棒に気づかず頭をぶつける
12	着地に失敗して、足首をひねる
15	友達の足や蹴った砂が目に入る
19	鬼ごっこをしていて鉄棒に気づかず顔をぶつける

3 技に失敗して鉄棒に歯をぶつける

12 着地に失敗して、足首をひねる

基本アイデア: ビヘーピアベースド発達診断 日用品の遊具化を用いた発達段階診断技術



Denver IIモデル(粗大運動の重要行動リスト)の網羅的認識技術

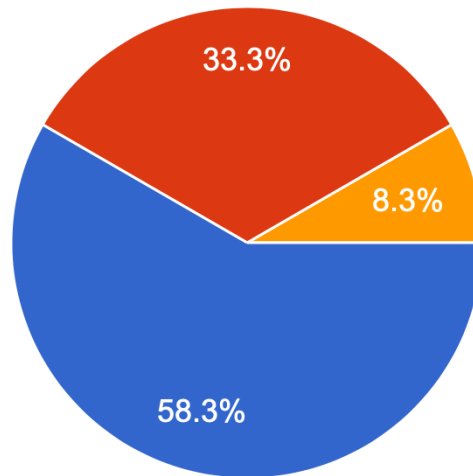
日用品とのインタラクション認識による行動回数データ取得

行動分布の変化を検出して発達段階を自動推定

アンケート集計結果

「園庭とはけっこう違う！公園の役割と課題」（松野講師）について十分に学ぶことはできましたか？

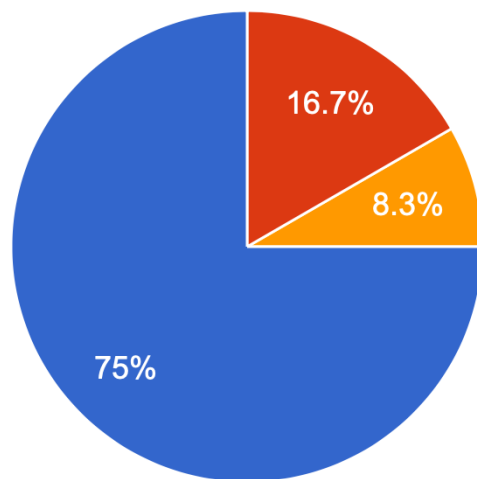
12 件の回答



- 十分に学ぶことができた
- 十分とは言えないが、大体のところは...
- よくわからなかった

「バナナ型滑り台」（鈴木講師）の課題や危険性等について十分に学ぶことはできましたか？

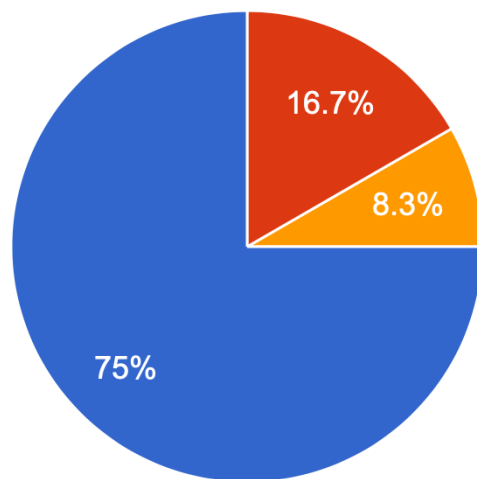
12 件の回答



- 十分に学ぶことができた
- 十分とは言えないが、大体のところは...
- よくわからなかった

「ローラースライダー」(原講師)の課題や危険性等について十分に学ぶことはできましたか？

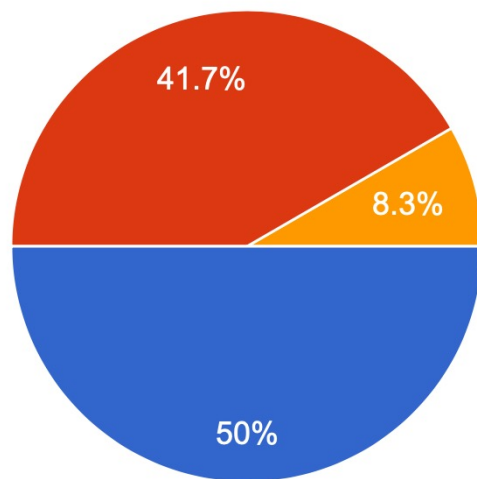
12 件の回答



- 十分に学ぶことができた
- 十分とは言えないが、大体のところは...
- よくわからなかった

遊具による傷害が発生した場合の再発予防に向けた対応や取り組みについて十分に学ぶことはできましたか？

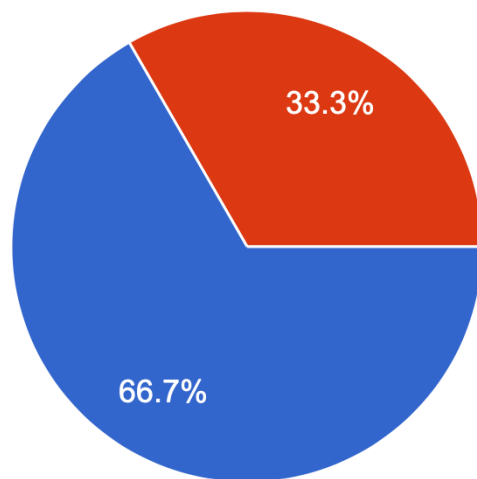
12 件の回答



- 十分に学ぶことができた
- 十分とは言えないが、大体のところは...
- よくわからなかった

「遊具の安全基準」（西田講師）に関する内容について十分に学ぶことはできましたか？

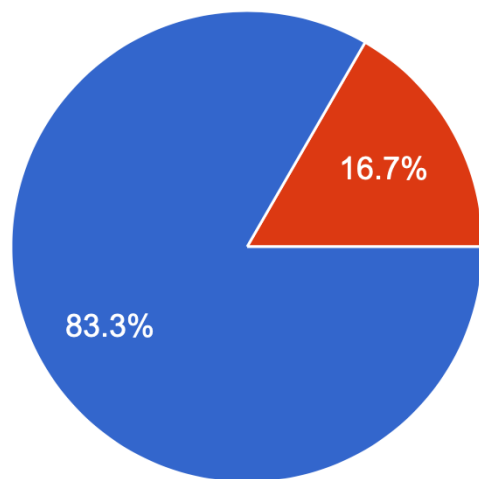
12 件の回答



- 十分に学ぶことができた
- 十分とは言えないが、大体のところは...
- よくわからなかった

「遊具による重大な傷害を予防するために」（山中講師）について十分に学ぶことはできましたか？

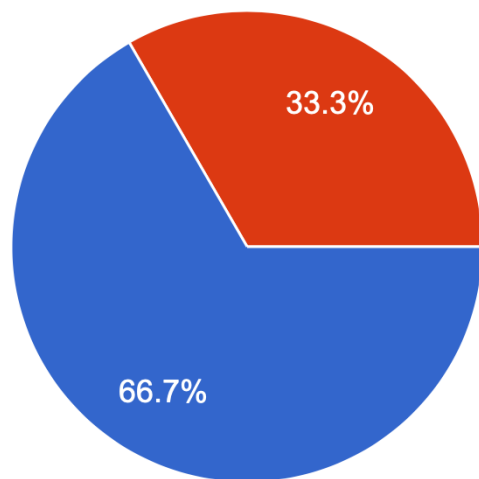
12 件の回答



- 十分に学ぶことができた
- 十分とは言えないが、大体のところは...
- よくわからなかった

全体を通じて、この学習会の満足度はどれくらいですか？

12 件の回答



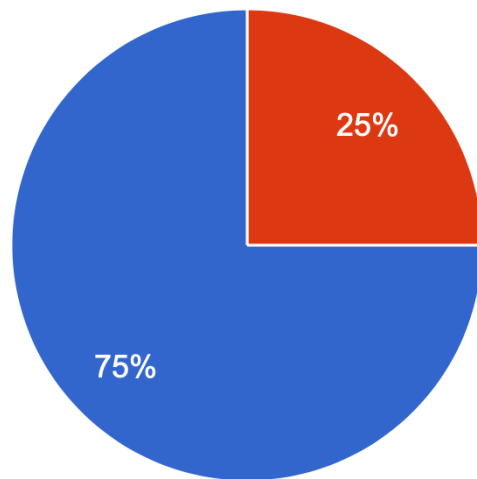
● 十分満足

● 十分とは言えないが、大体満足

● 満足とは言えない

Zoomミーティングでの進行はスムーズでしたか

12 件の回答



- スムーズだった
- まあまあスムーズだった
- スムーズとは言えなかった

今後も「遊具」をテーマとした学習会を開催する予定です。今後取り上げてほしい内容があれば記入してください。

5 件の回答

大型遊具

学習会のテーマではありませんが、[]区では、ある公園の滑り台(基準には適合)で骨折事故が2件、立て続けに発生した事から、遊具を封鎖し、専門家による検証が行われており、もう1年半が経過しています。今後公表される内容によっては、情報提供させていただければ幸いです。

遊具での重大傷害事故事例、外国の事例も

おそらく危険性が問題視されて姿を消した遊具、例えば箱型ブランコや回旋塔などは、どのような経緯をたどって使用されなくなっていたのか気になります。

都市公園の遊具については、日常点検に加え、年に一度、専門業者により遊具の精密点検を実施しています。点検により問題のある遊具は利用中止して、撤去または改修工事を実施した上で開放しています。

その中で課題と考えるのが、点検結果が点検者によって異なること。そして、タコ遊具などの特殊遊具が悉く利用中止になる事です。

その結果、昔から地域子ども達にとって思い出が詰まっていて、公園を特徴づける遊具が撤去されてしまう。そして世界中どこに行ってもあるような、つまらない遊具しか、公園に残らない事です。

私が講習会で是非お聞きしたいのは、公園施設業協会のお考えです。

①遊具に関する哲学

欧米メーカーの既製品を持ってくるだけで、何の特徴もない遊技場を造れば良いと思っているのか。

②遊具の安全基準

特殊遊具の安全基準を作る予定はあるのか。また、点検結果のばらつきを無くす取り組みはどうされているのか。

近々、点検要領の改定があるとも聞いていますので、それも併せて教えて頂きたいです。

その他、全体についてのご意見や感想があれば記入してください。

8 件の回答

今後も楽しみにしております

具体的な内容に基づき、詳しく学ぶことができた。ありがとうございました。

途中からしか参加できませんでしたが、
西田先生、山中先生のお話は大変分かりやすく、心に残りました。セーフキッズジャパンの動画はいつ観ても素晴らしいです。

参加させていただきありがとうございました。質疑応答の時間をあれだけとれるなら先生方のお話を最後まで聞きたかったです。時間の都合はあるかと思いますがもう少しゆっくりじっくり勉強出来るよう時間配分をお願いいたします。

（１）公園の遊具の話題でしたが、最後に、松野さんが質問に答えられる形でおっしゃったこと、年齢別で遊べる公園は、遊具面だけでなく私は、必要だと考えています。遊具の安全性だけでなく、小さな子を遊ばせに行った際に「ヒヤリ」「ハッと」した経験として、小学校高学年の大きな子が追いかけてこをしていて、ぶつかりそうになったことがありました。体重差があり、とても危険だと感じました。

（２）最近、近くの公園が改修工事（水害対策など）した際に、以前あった子ども用遊具が撤去されました。責任問題になるのを恐れて、できるだけ遊具を減らしてしまうのか、という印象がありました。（正確なことはわかりません。私の憶測です。）

ありがとうございました。

多方面の人たちと交流できて楽しかったです。

日本スポーツ振興センターの持っている、子どもたちの傷害情報はビッグデータであるとおっしゃってましたが、ケガをした詳細な状況はどのくらいの情報まで収集されているのかを知りたいと思いました。